

認知症カフェ（オレンジカフェ）ってご存知ですか？

はじめに

我が国の認知症高齢者は、平成24年に462万人（高齢者の約7人に1人）、平成37年には約700万人（高齢者の約5人に1人）に達すると見込まれています。今や認知症は誰もが関わる可能性のある身近な病気です。

厚生労働省では平成37年を見据え、「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す。」という基本的な考えで、平成27年に新オレンジプランを策定しました。その中で、認知症カフェを平成32年度までにすべての市町村に設置させる目標を掲げています。

認知症カフェ（オレンジカフェ）とは

1 目的は？

認知症の人やその家族が、地域の人

や医療・介護の専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う場。

2 誰の運営？

介護サービス施設・事業者、地域包括支援センター、市町村、社会福祉法人、NPO法人、認知症疾患医療センターなど。

3 活動内容は？

① 情報交換
お茶やコーヒーを飲み、お菓子をつまみながら、各家庭での工夫や経験談、今後の心配事を気軽に雰囲気の中で話し合う。

② 専門家による講話や勉強会
認知症についての勉強会や、暮らしに役立つ情報講座など。

③ 相談
認知症の人や家族が、病気や介護について気軽に相談できる。

④ その他
手芸、料理、カラオケ、脳トレ、ゲーム、散歩、体操、園芸などを一緒に行う。

4 参加費は？

無料〜数百円程度。

5 参加者のメリットは？

- ① 認知症の人
自ら活動し楽しめる場所
- ② 家族
分かり合える人と出会う場所
- ③ 専門職
ふれあう中で認知症の人の体調を把握できる場所
- ④ 地域住民
住民同士としての交流の場や認知症に対する理解を深める場所

参考：認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）

平成28年厚生労働省会議資料

終わりに

地域の状況に応じて様々な活動に取り組まれています。基本的には何か特別なことを行うのではなく、お茶

とお菓子で何気ない会話を楽しむ場所です。

鹿児島県内でも多くの市町村で取り組まれていますので、近くのカフェをのぞいてみてはいかがでしょうか？

※カフェについての情報は、市町村や地域包括支援センターに問い合わせてください。

鹿児島シルバー110番

専門相談員 保健師 馬場 廣美

